

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことから，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第2問と同じ。

第2問

「世界史上の都市」をテーマに，Aは，14世紀半ばのカイロの状況について書かれた年代記の一部を資料とし，本文の読み取りや資料の読み解きを通して得た情報を基に，類推する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出でならず，正答率・識別力の点でも問題はないと考えられる。Bでは，ロシアの都市サンクト＝ペテルブルクの歴史を対象に生徒たちが作成した準備メモを基に，都市の性格や歴史的変容を考察する力を問うた。問3については，正答率が34%とやや低かったものの，いずれの小問についても識別力の点では特に偏りは見られず，妥当と判断される。Cは，バンコクの地図とそれに関する会話文を素材とし，近代においてタイが経験した様々な変容について考察する力を問うた。特に，問7では，中間で扱われた3つの都市について，共通性や差異性を意識しながら，各都市の歴史的特徴について考えることができるかどうかを問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出でならず，正答率・識別力の点で妥当であった。

第3問

世界史を探究する際の資料の文脈や背景を理解する必要性をテーマとした。Aでは，古代ローマ共和政末期の内戦に関する記録を素材とし，古代における歴史の見方とその後代への影響について考察する力を問うた。正答率・識別力の点で妥当であった。Bは，中国の『礼記註疏』を資料として取り上げた。いずれの小問についても極端な解答結果は出でならず，正答率・識別力の点で妥当であった。Cは，インドと中国における近代以降の考古学調査や文化財保護をテーマにした資料を取り上げた。インドでは，宗主国側の立場から書かれた資料を取り上げ，中国では，民族運動側の立場で書かれた資料を取り上げ，対比を試みた。問6では，インドの資料を抽象化し，他の歴史事象へと具現化できるかどうかを問い，問7では，20世紀前半の中国の資料を抽象化し，社会的な変遷を含む内容的な理解を踏まえながら，資料から当時の中国における政治・社会状況を適切に読み取ることができるかどうかを問うた。問7については，正答率が低調であったが，いずれの小問についても識別力の点では特に偏りは見られず，妥当

と判断される。

第4問

世界史探究の授業において、様々な時代に存在した大陸を越えた諸地域の結び付きについて調査した探究活動の状況について述べている。Aでは、大陸を越えた綿花の貿易に着目したグラフから、当時のイギリスをめぐる世界経済のグローバル化に対する理解を踏まえ、歴史的事象の関連性について問うた。Bでは、ヴァイキングの活動範囲を示した図を基に活動の特徴について考察する場面を設定し、基礎的な知識と資料の読解力を問うた。いずれの中間についても極端な解答結果は出ておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

第5問

「政治権力が食料事情や食生活に与えた影響」という共通の主題についての班別学習に関する出題である。朝鮮半島で出土した木簡、タラ漁の歴史、先住民の伝統料理、第一次世界大戦中のドイツにおける食料価格に関する探究活動を素材とし、世界史で学んできた知識と地図・パネル・表などから読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。いずれの小問についても極端な解答結果は出ておらず、正答率・識別力の点で妥当であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第1問

『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」の第2問と同じ。

第2問

問2はマムルーク朝についての包括的理解を問う問題との評価を受けた。特に、選択肢が全て北アフリカに成立したイスラームの王朝に関する正命題で構成されている良問との評価を受けた。今後も、世界史探究の授業で学んだ知識と資料の丁寧な読み取りから得られる情報の組み合わせによって正答を導けるような問題を作成していきたい。問3については選択肢の文章の工夫について評価を受けた一方で、問4は年代に関する正誤判定になっているとの指摘を受けた。本来、各世紀の時代的特色に関する理解を問う意図であったが、結果として年代に関する知識のみで解答可能になっている側面も否定できず、今後はより思考力・判断力・表現力等を問えるような選択肢や出題形式を検討していきたい。問5は根拠を基に推論する思考力・判断力・表現力等を問う問題との評価であった。問6は2枚の図と会話文から情報を読み取る技能を問う問題として、良問との評価を受けた。また問7については、各都市に関する知識や情報を基に、都市に関する概念的理解に至る思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受けた。今後も、思考力・判断力・表現力等を問うように、グラフや図をより積極的に活用する問題へと出題形式を工夫していきたい。

第3問

問1は「勝利した側からの見方」を問う意欲的な問題との評価を受けた一方で、作問の工夫で、資料の持つ文脈や背景を考察する問題になったのではないかと、との指摘もあった。今後も引き続き工夫していきたい。問4については、資料内の「註」や「疏」の意味を理解した上で、研究のプロセスを推察する思考力・判断力・表現力等を問う良問であるとの評価を受けた。歴史研究の基本となる資料について興味・関心を高めてもらえるよう、内容だけでなく図版も積極的に活用した問題形式となるよう工夫していきたい。問6は、研究手法についての概念的理解を基に、類型化して考察する思考力・判断力・表現力等を問う問題として、問7では、概念的理解を基に、思考力・判断力・表現力等を問う問題として、それぞれ良問との評価を受けた。今後も、思考力・判断力・表現力等を問えるように、資料を積極的に活用した出題形式を工夫

していきたい。

第4問

問2は、数値の変動に関してだけでなく、その背景についての考察を促す思考力・判断力・表現力等を問う良問であると評価された。今後もこうした思考力・判断力・表現力等を問う出題を積極的に行いたい。問3はヴァイキングの活動に関する基礎的知識とメモの情報を基に、地図から進路を読み取ることで正解を導く問題として、問4は北米の遺跡が先住民の住居跡ではないことの根拠を考察する、思考力・判断力・表現力等を問う問題として、それぞれ良問と評価された。今後もこのような思考力と資料の読解力を問う出題形式を工夫していきたい。

第5問

問1は、思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受けた。特に、考察結果の示し方に工夫が見られたとの評価は心強いものであった。問3は、仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする出題であること、「伝統」という概念に問い直しを迫る点で、良問であるとの評価を受けた。問4は、概念的理解と資料の丁寧な読み取りを求める問題と評価された。問5は、概念的理解の下に、主題を追究するための事例を考察する思考力・判断力・表現力等を問う良問との評価を受けた。今回、大問の後に直接、小問を持ってくる形式で、探究的な学びへの工夫が見られたと評価された。問題全体とのバランスに配慮しつつ、難易度を工夫していきながら、今後も、思考力・判断力・表現力等を問う問題の作成に努めたい。

4 ま と め

以上、問題作成部会として、各問の出題意図と、設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ、問題作成に当たった留意点についてまとめておきたい。

今年度は『歴史総合、世界史探究』初年度であり、作題に際しては、歴史的な諸事象を、地図や図像、グラフ、表など、様々な情報から探究的に読み取り、世界史の大きな枠組みの中に位置付けていく思考を促す設問の作成を追求する中で、今後の「指針となる問題」であるとの評価を得ることができた。

今回の作題にあたって特に意識的に心掛けたのは、以下の点である。

課題を追求したり解決したりする活動を重視する「世界史探究」の目標に照らして、大問ごとに共通のテーマを設定し、個別の歴史的事象の理解とともに、それらを比較検討して概念的理解へと昇華していくことを目指したことである。これについては、大問全体を貫く締めくくりの問題に対して、「概念的理解」を求める「意欲的な作問」との評価を得るなど、一定の水準までは到達できたと考える。このような共通テーマの設定に基づいて課題を探究していくスタイルの設問は、今後も不断の改善に努めつつ継承していきたい。また、多様な資料によって示される多様な情報を読み取ることで正答に至る設問の設定についても、その実現を目指した。収集した情報を、歴史的な見方・考え方を働かせて読み取る技能は、世界史探究の授業の中でも習熟が求められているものである。したがって、単純に知識のみで解答できるわけではなく、資料の読み取りを経て、これを知識と照合することで解答が導かれるような設問を提示した。使用した資料については、「多岐にわたっていて、よく工夫されている」との評価を得ているが、資料の読み取りと前提的な知識がともに求められる設問形式については、更に工夫を重ねていきたいと考えている。

分量に対する配慮は、大きな課題であったが、この点についても、「分量は試験時間に見合った適切なもの」との評価を得ており、おおむね適正であったと考えられる。

はじめに述べたように、今回は『歴史総合、世界史探究』の初年度であり、どのような作題を通

して『歴史総合，世界史探究』の目標に近づくことができるのか，模索の連続であった。今後も引き続き，常に歴史の大きな枠組みを意識しつつ，知識及び技能，思考力・判断力・表現力等を総合的に問うことのできる問題作成に留意していきたい。